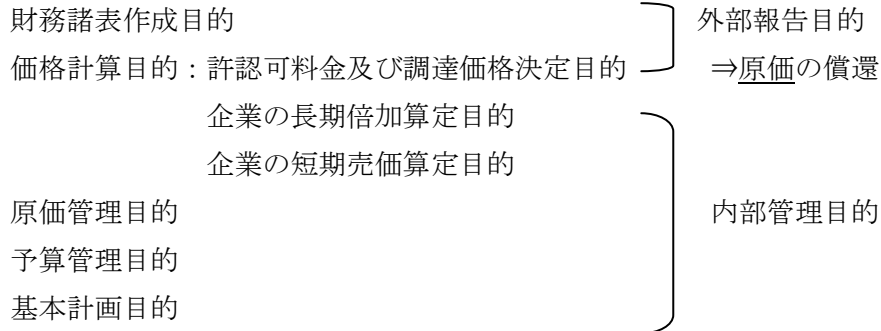


診療報酬算定における原価計算の意義

小林麻理

1. 企業における原価計算の目的



2. 診療報酬算定における原価計算の意義と課題

診療報酬体系と整合した医療サービスを原価計算対象として設定し、原価を算定することが必要である。診療行為別の原価算定、診断群別の原価算定が必要となる。

課題

- 診療報酬体系と整合した医療サービスを原価計算対象として設定することが可能か。
- 医療サービスを構成する原価要素をどのように識別するか、原価算定に含める原価要素の範囲を明確化する基準をいかに設定するか。
- 全部原価の算定にあたっては、設備投資等の適正性、資産効率の努力等の個別の経営意思決定に係る要素をどのように平準化して評価するか。
- 診療報酬算定に役立つ原価算定に医療サービスの部分原価を用いる場合、診療報酬体系と整合する部分原価をどのような基準で識別するか。
- 間接費の適切な配賦基準を設定するためには、診療行為の原価発生原因(原価作用因)を分析する必要がある。
- 診療行為は個別であり、本来個別原価計算が適合すると考えられることをどう考えるか。

診療行為の部分原価として、まず基本的な原価要素を識別し、そのうえで診療行為のアウトカムに影響を与える要因(原価要素)を識別することが重要と考えられる。